

健康人間学研究会記録

(1987年11月より1989年3月まで)

本研究会は京都大学医療技術短期大学の学内研究プロジェクトの一つとして、1987年11月に発足した。健康人間学という学問の名称が使われたのはおそらく世界で初めてであろうが、これは、11月20日に開かれた準備会において、コーディネーターの石井が『プロジェクト通信1』で提示していた研究の方向付けと共に、参加者一同によって確認された(資料参照)。その際、さしあたって、毎月一回例会を持ち、基本的文献を検討したり、研究成果を発表したりすることになった。

以下は本研究会の活動記録である。毎月の例会は、午後4時20分から6時まで京都大学医療技術短期大学部会議室で行われた。

研究会準備会 1987年11月20日(金)

午後2時から4時まで

議題

1. 「健康人間学」の性格の輪郭付け
2. 今後の協働的研究の具体的な進め方

第1回研究会 1987年12月14日(月)

テーマ：澤瀉久敬の生命及び健康の思想Ⅰ

テキスト：澤瀉久敬著『医学概論』第三部

医学について(誠信書房)

第1章 健康

参考文献として、

1. 澤瀉久敬著『医学概論』第二部生命について(誠信書房)
2. 澤瀉久敬著『健康を考える』レグルス文庫65(第三文明社)

発題者：石井誠士(教養科, 哲学)

第2回研究会 1988年1月25日(月)

テーマ：澤瀉久敬の生命及び健康の思想Ⅱ

テキスト：前回に同じ

発題者：石井誠士(教養科, 哲学)

第3回研究会 1988年2月16日(火)

テーマ：西田哲学の生命論Ⅰ

テキスト：西田幾多郎全集題十二巻

「日本文化の問題」の三と四

発題者：石井誠士(教養科, 哲学)

第4回研究会 1988年3月22日(火)

テーマ：西田哲学の生命論Ⅱ

テキスト：前回に同じ

発題者：石井誠士(教養科, 哲学)

第5回研究会 1988年4月25日(月)

テーマ：西田哲学の生命論Ⅲ

(特に人間観を中心に)

テキスト：前回に同じ

発題者：石井誠士(教養科, 哲学)

第6回研究会 1988年5月23日(月)

テーマ：小児看護教育における健康人間学へのアプローチ

発題者：近田敬子(看護学科)

第7回研究会 1988年6月24日(金)

テーマ：事例を通して「健康」を探る
—作業療法の立場から—

発題者：木村信子(作業療法学科)

健康人間学研究会記録

第8回研究会 1988年7月22日(金)

テーマ:「健康ということ」
—『ハイジ』『秘密の花園』
を中心に—

発題者:加茂映子(教養科, 英文学)

第9回研究会 1988年9月16日(月)

テーマ:「我と汝」について
発題者:伊藤好美(看護学科)

第10回研究会 1988年11月4日(金)

テーマ:「欲望と願望」について
発題者:片山由美(看護学科)

第11回研究会 1989年1月23日(月)

テーマ:ヨーロッパの健康科学
発題者:石井誠士(教養科, 哲学)

第12回研究会 1989年2月23日(木)

テーマ:心と体のリラックス法
—ヨーガを中心として—
発題者:大橋ミツ(教養科, 心理学)

第13回研究会 1989年3月24日(金)

テーマ:天台止観の健康論
テキスト:『天台小止観』治病患
発題者:石井誠士(教養科, 哲学)